

番 号  
令和6年6月20日

佐賀県県民協働課長 様

住 所 〒841-0072佐賀県鳥栖市村田町1250番地1(真心の園内)  
団 体 名 特定非営利活動法人小児がん・まごころ機構  
代表者職・氏名 理事長 中川原 章  
電 話 番 号 0942-50-5542

佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による  
寄附金活用実績報告書

令和5年度において、当団体に交付された佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」を活用して別紙のとおり事業を実施したので、佐賀県ふるさと寄附金（「県民協働の地域づくり」及び「NPO等を指定した支援」）による寄附金交付要綱第21条第1項の規定により提出します。

令和6年度 佐賀県ふるさと寄附金「NPO等を指定した支援」による寄附金活用実績報告書

- 1 団 体 名 : 特定非営利法人小児がん・まごころ機構
- 2 事業実施期間 : 令和5年4月1日から令和6年3月31日
- 3 事業の背景 (※事業計画書から転記)

■事業の実施により実現したい佐賀県の地域像

当法人は、日本及びアジアの小児がん及びAYA世代(15歳～39歳)のがんの治癒率向上を目指し、治癒した後の晩期合併症で苦しむ患者・家族のための支援をしている。佐賀県では毎年それらの患者が発生しており、これまで治癒したがん経験者総数は1,000名を優に越している。従って、当法人の広報・イベント活動・支援活動等によって、県内におけるこれらのがんの治癒率が向上し、治癒後のQOL(生活の質)が改善されれば、佐賀県の子どもや若い世代のがん患者がより幸せな人生を送ることができるようになる。しかもそれだけでなく、当法人の啓発・啓蒙活動によって、多くの市民・県民が辛い立場にある彼らをより理解し、より強く支援するようになることが期待される。そのようなうねりがふるさと納税によって齎され、基盤を強化した当法人の活動から、県民が命の大切さをより良く理解し、より温かい絆で連携し、より強く互いに思いやりのある佐賀県を醸成することが可能となるであろう。また、悲惨な状況にあるアジアの小児がん、AYA世代のがんの患者・家族の現状を知ること、それらを大幅に改善するための運動がこの佐賀県からアジアへ向けて起こってくるものと、多いに期待される。

4 事業の成果

①県民の便益にどのようにつながったのか

佐賀県のふるさと納税寄附金を活用し、佐賀市で開催された「小児がんデー(ICCD)」等を通して佐賀県民をはじめとした多くの方に、小児がんに関する啓発活動を行った。日本を含むアジアの小児、AYA世代がんの現状を周知することで、治癒し、がんを経験した子どもや若者たちが成長した後も、多くの理解者と支援者に囲まれ、より生きやすく生き甲斐を感じることで佐賀県を作る一助となった。

②佐賀から広がった社会像(該当する活動のみ)

がんで苦しむ子どもや若者は、罪の無い弱い立場に立つ人たちであるが、佐賀県、日本において大変有能で大切な存在である。本機構が佐賀市で開催した小児がんイベント(ICCD)等がインターネットを通じて世界に発信されることで、力強い支援と温かい思いやりの気持ちが醸成した。そして、これは、ICTやAIが進化する世界になっても、人間の本质を生かし続ける価値そのものとなった。そのような、人間であることに価値を見出せる、互いに支え合える社会を作ることができるということを、小児がんやAYA世代のがん患者の支援を通して、佐賀から日本中へ、そして世界へ広げることが出来た。

- 5 寄附金活用事業実績 : (別記1)
- 6 次年度繰越額活用見込み : (別記2)
- 7 寄附金活用額 : (別記3)

(別記1) 寄附金活用事業実績

○寄附金を活用して行った事業 (GCFを行った場合は、GCF名とその内容を記載)

事業名	具体的な事業内容 ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所	事業費の 支出金額 [単位：円]	うち寄附金 活用額 [単位：円]
小児がんに関する啓発事業	①WHO GICC、Global Gold September Campaignの一環として、国内外の小児がん治療の現状を知らせる ②医療従事者、小児がん患者・家族 ③ハイブリットイベント	①R5年9月23日 ②国立がんセンター	4,525,056	4,525,056
同上	①小児がんデー (ICCD)の一環として、国内外の小児がん患者・家族の活動を知らせる ②医療従事者、小児がん患者・家族 ③ハイブリットイベント	①R6年2月4日 ②ニューオータニ佐賀	1,169,379	1,169,379
小児がん患者のための長期フォローアップに関する事業	①小児がん患者のための長期フォローアップ ②小児がん患者およびその家族 ③小冊子の印刷	①通年 ②東京事務所内	7,290	7,290
アジアの小児がん関連団体の支援事業	①アジア小児血液・がん治療研究グループ (APHOG) 活動支援 ②APHOG委員 (EC, ACメンバー) など ③ホームページ運営と広報・定期的国際ミーティング支援	①通年 ②東京・佐賀事務所内	830,375	830,375
計			6,532,100	6,532,100

## (別記2) 次年度繰越活用見込み

## ○次年度に繰り越した寄附金の活用見込み

事業名	具体的な事業内容 (予定) ①目的②対象者③実施内容	①実施日時 ②実施場所 (見込み)	事業費の 支出見込み額 [単位：円]	うち寄附金 活用見込み額 [単位：円]
小児がんに関する啓発事業	①WHO GICC、Global Gold September Campaignの一環として、国内外の小児がん治療の現状を知らせる ②医療従事者、小児がん患者・家族 ③ハイブリットイベント	①R6年9月8日 ②国立がんセンター	4,000,000	2,000,000
同上	①小児がんデー (ICCD)の一環として、国内外の小児がん患者・家族の活動を知らせる ②医療従事者、小児がん患者・家族 ③ハイブリットイベント	①R7年2月15日 ②ニューオータニ佐賀	1,266,900	1,266,900
ホームページ改修	①MOCCのホームページリニューアル ②医療従事者、小児がん患者・家族 ③管理会社の変更、デザイン、	①R6年7月～10月 ②佐賀事務所	700,000	700,000
小児がん患者のための長期フォローアップに関する事業	①小児がん患者のための長期フォローアップ ②小児がん患者および家族 ③小冊子の印刷、アプリケーションの更新	①通年 ②東京事務所内	500,000	500,000
アジアの小児がん関連団体の支援事業	①アジア小児血液・がん治療研究グループ (APHOG) 活動支援 ②APHOG委員 (EC, ACメンバー) など ③ホームページ運営と広報・定期的国際ミーティング支援	①通年 ②東京・佐賀事務所内	3,000,000	1,500,000
計			9,466,900	5,966,900

(別記3) 寄附金活用額

<b>【収入】佐賀県ふるさと寄附金収入額 … ① (=A+B)</b>		<b>14,967,637</b>
(内訳)	本年度の佐賀県ふるさと寄附金収入額 … A	14,967,464
	本年度交付を受けた佐賀県ふるさと寄附金分	14,917,850
	前年度控除額(県事務経費)還付分	49,614
	前年度収入済の佐賀県ふるさと寄附金繰越額 … B	173

<b>【支出】佐賀県ふるさと寄附金活用額… ② (=a+b)</b>		<b>9,000,737</b>
(内訳)	事業に活用した寄附金額 … a	6,532,100
	ふるさと納税の募集に要した費用の額 … b	2,468,637
	返礼品等の調達に係る費用	363,760
	返礼品等の送付に係る費用	61,820
	広報に係る費用	712,360
	事務に係る費用	1,330,697

<b>佐賀県ふるさと寄附金の次年度繰越額 … ③ (=①-②)</b>		<b>5,966,900</b>
-------------------------------------	--	------------------

■直近の収支報告書掲載箇所(ホームページURL等)

<https://mocc4u.org/>(現在(2024年6月)サーバー移行のため未更新)